

平成30年度とくしまの魅力発信地産地消推進事業

事業者：牟岐生産者産直市部会

連携団体：牟岐の農業を考える会・牟岐青空市部会・JAかいふ牟岐女性部・JAかいふ・牟岐町

「牟岐の美味しいお米や農産物を牟岐の人にもっと知ってもらいたい」

牟岐産直部会は担い手や女性を中心に「農地を荒らさない、農業を継続する」といった目的のもと、遊休農地でスイートコーンやもち麦を栽培し、遊休農地の解消に努めている。

今回、農作業体験等による消費者との交流活動を通して地域農業や農産物への理解を深め、地元農家の所得向上及び地域の活性化を図るため、稲刈り体験や第2回お米祭りを開催した。

取組の内容

○トウモロコシ収穫祭

トウモロコシの収穫体験やコーンご飯の試食を実施。地産地消の有益性について感じていただいた。



お米の収穫体験

○稲刈り体験

家族で農業作業を体験してもらって稲刈り体験会を実施した。また、旬の野菜やお米、地場物加工品の試食により、牟岐のよさを再確認していただいた。



お米祭り

○第2回お米祭り

牟岐産のお米や加工品のおいしさにふれるとともに、地産地消の大切さや野菜摂取の重要性について学ぶことができるイベントとして「お米祭り」を開催した。徳島文理大学の教授・学生によるミニ講座を実施し、農産物の栄養成分表示についても学んでいただいた。



参加者の感想

実際に農作業を体験し、農業の大変さが理解できた。体験に参加して子どもとともに地元意識を持つことができた。

地産地消の安全性、有益性を証明することは地域の発展につながると思う。

食品購入時に品質表示等を気にしているので、機能性食品の効能などをもっと知りたい。

取組の成果

稲刈り体験をきっかけに子どもたちにお米の育つ姿を見せることができ、生産者の顔が見えるお米の販売につながった。

イベントで今年から販売するもち麦のPR活動ができ、遊休農地解消の取組について知っていただくことができた。

大学と連携し実施した栄養成分表示や機能性表示、野菜1日350gを食べる秘訣の講演に多くの人が参加いただき、食への意識向上ができた。

今後の展望

地域農業は農業者の努力に依存しているだけでは限界がある。加工・流通・販売等、川下におけるエンドユーザーと農業者、農業団体等での推進体制を作る必要がある。

学校給食を始め地場産物の利用を推進する食育活動等の取組により、次世代につながる地産地消への軸足を強めたい。